



伊平屋村

議会だより

第138号
6月定例会
令和6年8月

主なコンテンツ

議会 Q & A・・・P5-P6

一般質問 ……P7-P15

野甫大橋の北側

世界の海水温は長期的に上昇しており、2024年に過去最高を記録しました。沖縄県でも温暖化に加えて台風の到来が少なかつたことで、高い海水温が維持されてしまい珊瑚の白化現象が深刻化しました。村内では野甫大橋から白化した珊瑚を確認できるほどでした。

(画像提供 大友洋一)

まさかや～

また魚減るわけ！？



議会の動き

(令和6年3月～令和6年5月)

(臨席を含む主な行事)

令和6年3月

- 3月1日 北部振興会 第1回総会
- 3月6日 公営企業説明会(水道広域化)
- 3月9日 伊平屋中学校卒業式
- 3月9日 野甫中学校卒業式
- 3月11日 伊平屋村議会 第3回定例会(11日～15日)4日間
- 3月14日 クルーズ船寄港時の歓迎及び歓迎式
- 3月18日 学校給食運営委員会
- 3月18日 伊平屋小学校卒業式
- 3月19日 『伊平屋観光・物産フェア2024』第2回実行委員会
- 3月27日 『第29回ムーンライトマラソン大会』第2回実行委員会

令和6年4月

- 4月4日 育英会・理事会及び総会
- 4月5日 伊平屋島の環境保護を目的とした連携に関する覚書締結式(コープ四国美ら島応援基金)
- 4月6日 製糖工場操業式
- 4月7日 **伊平屋・伊是名架橋建設促進協議会・理事会(伊是名村)**
- 4月8日 伊平屋中学校入学式
- 4月9日 幼稚園入園式
- 4月9日 伊平屋小学校入学式
- 4月11日 **伊平屋・伊是名架橋建設促進協議会・理事会(伊平屋村)**
- 4月17日 **北部道路網の整備促進並びに離島架橋の早期実現に向けた決起集会(名護市民会館)**
- 4月17日 クルーズ船寄港時の歓迎(ポナン社)
- 4月18日 第23回伊平屋村商工会青年部通常部員総会
- 4月20日 北部市町村議会議長会の呼びかけによるジャングリア視察研修
- 4月24日 北部市町村議会議長会 名桜大学施設整備状況視察及び防災ヘリ案件の協議・調整
- 4月29日 『伊平屋村海開き』安全祈願
- 4月30日 沖縄振興拡大会議

令和6年5月

- 5月1日 伊平屋村さとうき増産推進パレード
- 5月8日 北部市町村議会議会議長会 第1回理事会・定例総会(東村)
- 5月13日 町村議会常任委員長・副委員長実務研修会
- 5月14日 **伊平屋・伊是名架橋建設促進協議会総会(伊平屋村)**
- 5月19日 町村議会議長・副議長研修会(19日～23日)5日間
- 5月22日 第7回伊平屋島観光協会 通常総会
- 5月30日 伊平屋村老人連合会定期総会

架橋の動きが
活発化!

議会だより137号(3月定例)
のP15に関連記事掲載



令和6年(第3回)3月臨時議会議決結果一覧

令和6年第3回臨時会は3月26日に開催されました。

議案番号	件名	審議結果
議案第33号	職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第34号	令和5年度伊平屋村一般会計補正予算(第10号)	原案可決
議案第35号	令和5年度伊平屋村国民健康保険事業特別会計補正予算(第4号)	原案可決
同意第2号	教育長の任命について(※1)	同意

(※1) 新教育長『石川清一』氏の紹介は、議会だより137号のP13に掲載しています。

計	条例	予算	同意
4	1	2	1

令和6年(第4回)6月定例議会議決結果一覧

令和6年第4回定例議会は6月11日～6月13日に開催されました。一般質問では6名の議員が登壇し村政について質問しました。

議案番号	件名	審議結果
議案第36号	伊平屋村立学校統廃合検討委員会設置条例の制定について	原案可決
議案第37号	伊平屋村船舶運航事業条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第38号	伊平屋村ポーターミナルの設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第39号	沖縄県後期高齢者医療広域連合規約の変更について	原案可決
議案第40号	令和6年度伊平屋一般会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第41号	令和6年度伊平屋村歯科診療事業特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第42号	令和6年度 村道我喜屋西線道路改良工事(その5)の請負契約について	原案可決
議案第43号	伊平屋村農業近代化施設(ライスセンター)建設工事の請負契約について	原案可決
議案第44号	伊平屋漁港水産施設建設工事の変更請負契約について	原案可決
報告第2号	令和5年度伊平屋村一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	報告
報告第3号	令和5年度伊平屋村一般会計事故繰越費繰越計算書の報告について	報告

報告第4号	令和5年度伊平屋村簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）専決処分の承認を求めることについて							報告	
承認第2号	専決処分した伊平屋村税条例（昭和47年5月13日条例第45号）の一部を改正する条例の承認を求めることについて							承認	
発議第2号	議員派遣の件							即決	
	閉会中継続調査申出書								
計	条例	予算	同意	報告	発議	変更	契約	承認	その他
15	3	2	0	3	1	1	3	1	1

議案第36号『伊平屋村立学校統廃合検討委員会設置条例の制定について』 ー検討委員会設置条例の条項を抜粋

第2条 委員会は、教育長の諮問に応じ、伊平屋村立の学校統廃合及び存続の検討を行う。

第3条 委員会は、委員15人以内で組織する。

(1) 保護者代表、(2) PTA 役員、(3) 区長、(4) 学校長、(5) 議会議員代表、
(6) 学識経験者

第4条 委員の任期は、2年とする。但し、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

令和6年（第5回）6月臨時議会議決結果一覧

令和6年第5回臨時議会は6月24日に開催されました。

議案番号	件 名	審議結果
議案第45号	伊平屋村ポートターミナルビル改修工事（建築）の請負契約変更について	原案可決
議案第46号	伊平屋村ポートターミナルビル改修工事（電気）の請負契約変更について	原案可決
議案第47号	令和6年度伊平屋村一般会計補正予算（第2号）	原案可決
報告書5号	伊平屋村ポートターミナルビル改修工事（建築）の専決処分の報告について	報告
報告書6号	伊平屋村ポートターミナルビル改修工事（建築）の専決処分の報告について	報告
同意第3号	副村長の任命について（※2）	同意

（※2）副村長『金城時正』氏の任期満了に伴う選任により、同氏が再任しました。

計	予算	同意	報告	契約
6	1	1	2	2

《第4回（6月）定例議会 議案 Q & A》

議案第 36 号 伊平屋村立学校統廃合検討委員会設置条例の制定について

Q1, 野甫集落との関係は？

A1, この条例は、野甫小中学校単独の話ではない。伊平屋村立学校統廃合検討委員会は、伊平屋村内の小中学校に通う全ての児童生徒にたいし義務教育の機会均等と水準の維持・向上の観点から実情に応じた教育環境を作るために話し合いをする組織である。

Q2, 野甫小中学校の問題も喫緊の課題ですが、伊平屋小学校と伊平屋中学校も統廃合を検討するのか？

A2, 村内の公立学校の存続と統廃合について検討を進める。

議案第 37 号 伊平屋村船舶運航事業条例の一部を改正する条例

Q3, 次席一等航海士、次席一等機関士を置くことになっているが、その人員確保どのようになっているか？

A3, 現在、有資格者が慢性的に不足している状況にあり、休みが取りにくくなっている。

議案第 39 号 沖縄県後期高齢者医療広域連合規約の変更について

Q4, 今回の規約の変更は、被保険証が廃止されマイナンバーカードに統合するということか？

A4, 12月2日以降被保険者証は発行されず、マイナンバーカードに統合される。

議案第 40 号 令和6年度伊平屋一般会計補正予算（第1号）

Q5, ライスセンター整備に要する経費が増額となっているが、具体的な内容について説明をお願いしたい。

A5, ライスセンター整備については令和5年度の繰越予算である。前年度から入札不調が続いており業者に見積もりを依頼したところ、約1億8千万円の開きがあり公共の標準的な積算では契約に至らなかった。そのため、業者の見積もりを採用し予算計上を行っている。

Q6, ライスセンター整備事業の繰越明許費で 10 億円近く、今回の補正で約 2 億 3 千万円となっているが、執行は大丈夫か？

A6, 令和 5 年度から繰越された予算については、本年度 3 月末までの事業工期となっており、今回追加する予算についても今年度末の完了を目指す。

Q7, 一般管理費の負担金で、沖縄銀行負担金として 5,039 千円予算計上されている。その内容は？

A7, 伊平屋村が未来沖縄との間で、沖縄の離島町村パートナーシップ協定を結んでおり、職員交流として職員一名が派遣された際の人件費である。その原資は、沖縄銀行より企業版ふるさと納税で 500 万円を納税して頂いている。

Q8, 地方債で無電柱化整備事業債 600 万円、観光周遊景観環境整備事業債 850 万円、農業近代化施設整備事業債 5,160 万円が追加されているが交付税措置はあるのか伺う。

A8, 無電柱化整備事業債と農業近代化施設整備事業債には、辺地対策事業債を利用する。観光周遊景観環境整備事業債には、過疎対策債のソフトを利用するため、70%～75%の交付税措置がある。

経済建設常任委員会委員長 新垣雅士さん

今年の猛暑はサンゴの状態に追い打ちをかけています。野甫大橋から見下ろしただけで、白化現象を起こしていることが分かります。高い海水温は簡単に改善できませんが、本村では珊瑚の養殖及びその技術を生かした教育、観光等の事業を展開する企業誘致構想があります。

また、珊瑚の生存に悪影響を与える赤土に関しても、前泊沈砂池の問題が浮上したことで対策が進んでいます。もちろん村民一人一人にできることもたくさんあります。できることから取り組もうという心意気が大切です。みんなで取り組んでいきましょう。

サンゴ保全 個人 **検索**

経済建設常任委員会とは

伊平屋村議会は課題を専門的に調査するため、二つの常任委員会を設定して各担当分野を決めています。『伊平屋村議会委員会条例』によると、経済建設常任委員会の担当分野は「経済建設」「農林水産」「農業委員会」等に関する内容です。



画像提供 大友洋一



一般質問ダイジェスト目次



ページ	氏 名	件 名
8	上原悠作	遊具付公園について、具体的に進捗を伺う。
8	津田 隆	前泊地区の沈砂池に関して、復旧の進行状況を伺う。
9	津田 隆	島の基幹産業であるサトウキビの収穫量が低い理由を伺う。危機的な状況に陥っている農家のために、できることはないか。
10	西銘真助	伊平屋人口ビジョン策定と第5次総合計画・第2期総合戦略について。
11	西銘真助	我喜屋公民館の拡張整備を望む声がある。村の負担が少ない補助メニュー等を活用できないか。
11	新垣雅士	無電柱化推進事業の現状と進捗状況を伺う。
12	新垣雅士	廃プラと漂着ゴミの処理について、現状と今後の展開を伺う。
12	新垣雅士	指定された土取り場があれば、自分たちで補充したいという農家の意向がある。考えを伺う。
13	野甫英芳	伊平屋空港と伊平屋・伊是名架橋建設の現状と、今後の展開について伺う。
14	野甫英芳	伊平屋村農業近代化施設（ライスセンター）の稼働予定を伺う。
14	野甫英芳	商福連携拠点施設について。伊平屋菓子ワークスの稼働状況と今後の事業展開を伺う。
15	上地義則	展望台へ向かう林道の入口を1カ所に決めて、一方通行にすることは可能か。
15	上地義則	フェリーいへやⅢの女性船員の採用について。

一般質問で行われている全部のやりとりをQRコードで確認できるようになりました。

各質問にQRコードが掲載されています。『議会だより』は編集を加えた要約となっておりますので、QRコードから全部のやりとりを確認してみてください。『伊平屋村役場公式HP』内の「伊平屋村議会」に掲載しています。これまで通り会議録も各公民館に配布しています。



一般質問ダ

6 名が登壇して合計

議会の動き

議決結果

議案 Q & A

一般質問ダイジェスト

議会あれこれ

上原

津田

西銘

新垣

野甫

上地



うえ はら ゆう さく

上原 悠作

QR コードで
すべて確認



遊具付公園について、具体的に進捗を伺う。

答 検討委員会を早期に立ち上げ、今年度中には方向性を決めていきたい。

【上原】3月定例会の一般質問では、子供会のアンケートを集計中という回答であった。その後どのような結果が出たのか、集計率などを含めて具体的に教えていただきたい。

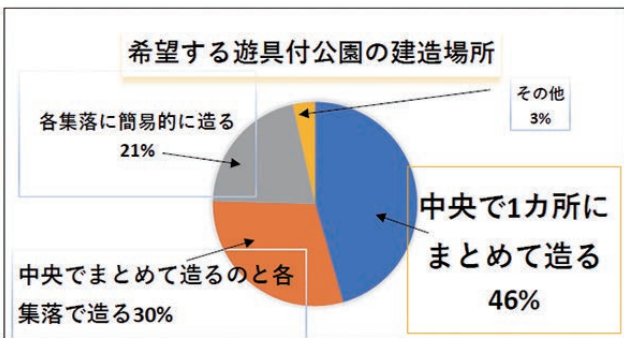
【名嘉建設課長】アンケートは10代から50代までの57人が回答し、うち27名が男性、30名が女性であった。結果は多い順から「中央で1カ所にまとめて造る」が26名、「中央でまとめて造るのと各集落に造る」が17名、「各集落に簡易的に造る」が12名、その他に「造らない」「その他」「田名と米崎に造ってほしい」という意見があった。

【上原】合計で57名から回答があったとのこと。「1カ所に造る」というのが46%を占めているということ。これからの進捗も含めて伺う。

【名嘉建設課長】この結果を受けて検討委員会を早期に立ち上げて、「どういった規模のものを造るか」などを話し合っていたというので、その意見を充分吸い上げて検討していきたい。

【上原】早期にやるという返答だが、令和6年度中に粗々固まるのか、7年度中に建設に入るのか。

【名嘉建設課長】個人的には条例化して委員の選出条件等を決めて、委員会を立ち上げ、今年度中には方向性を決めたほうがいいと思っている。



つ だ

津田

たかし

隆

QR コードで
すべて確認



前泊地区の沈砂池に関して、復旧の進行状況を伺う。

答 次年度採択への交渉を行っている状況。新事業では沈砂池の浸透能力が高い浸透池に改修して、調整池を設けることで改善する見込み。

【津田】前泊地区の沈砂池については、担当者から十分に話を聞いて、議会の中でも説明を受けて計画も聞いたので深くは追求しない。相当考えてくれたことが伝わったので、見通しは明るいと思えている。これからは、議会も一緒になって検討しながら進めていけたらいいと思う。

【伊礼農林水産課長】前泊地区の沈砂池の現状は1程度。赤土流出防止対策が図られているが、大雨が短時間に集中すると、村単費で実施している海岸の砂の堤防及びポンプアップでは限界がある。これまで沖縄県の窓口にも現状を説明し、何度も早期対策事業へ向けて要請してきた。

今年度から、次年度の新規対策へ向けたヒアリングを実施しており、次年度採択への交渉を行っている。事業内容としては、環太平洋水質保全対策事業を活用した赤土対策となる。

現在、前泊地区にあるのは3号沈砂池と海岸側の1号沈砂池。新しい事業では、これらの沈砂池を浸透する能力が高い浸透池に改修する予定。さらに3号沈砂池の隣にある用地を購入して、オーバーフロー等に対応する調整池を設ける。1号沈砂池の側にも調整池を新設予定となっている。

また一部の流域で山からの水が県道を越えて圃場（農作物を育てる場所）の水と合流しているので、そちらは圃場の水を3号沈砂池へ誘導し、栄養価の高い山の水はそのまま流すことで今までの赤土問題に対してはクリアできると考えている。

【津田】よく分かった。二度と失敗しないように、議会と一緒に検討しながら進めてほしい。





島の基幹産業であるサトウキビの収穫量が低い理由を伺う。危機的な状況に陥っている農家のために、できることはないか。

議会の動き

議決結果

議案 Q & A

一般質問ダイジェスト

議会あれこれ

答 土壌が影響しているが適正な肥培管理で反収向上は可能。北部灌漑事業で散水状況が改善されて、土地改良事業も採択に向けて調整している。

提言 化学肥料と水を2年ほど無償提供できないか。もしくは旧製糖工場にある機械で堆肥を作る等、できることからでも迅速に進めてほしい。

【津田】サトウキビは島の基幹産業である。しかし近隣市町村のキビ作反収8トンに対し、伊平屋村のキビ作反収は3.5トン。他市町村と比較して著しく収穫量が低い理由を伺う。

【伊礼農林水産課長】『令和4年度5年期サトウキビ作型生産実績』と『優良事例報告書』を参考にする、10アール当たりの収量の比較では、北部とそこまでの差はない。これは、国頭マージの土壌が影響しているという認識で間違いないと思っているので、それを踏まえて回答する。本村及び本島北部の土壌が国頭マージの地域は、肥沃度が低く、作度深が浅いため、生育や生産性に影響を与えていると考えられる。国頭地区の反収などをみると、ほぼ同列になっていることもそれを裏付けている。伊江島も国頭地区だが、土壌が島尻マージなので、南部地区のように土壌がもともと優れている。さらに堆肥など有機的なことを行っている結果として、反収が上がっていると予想している。

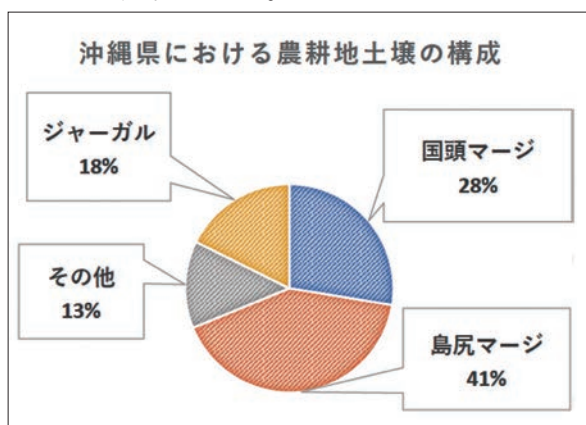
国頭マージでも、適正な耕運、整地、種撒き、灌漑、配水、施肥、農薬散布、除草と、いわゆる肥培管理をすることで反収を向上させられることは、各地域で実証済みである。本村でも堆肥づくりを行っているが、原材料及び適正な時期での堆肥の確保が困難である。その状況を踏まえて、今年度に伊平屋村土壌診断調査を実施している。土層改良マスタープラン策定委員会を設置し、令和8年度に新規採択事業として土層改良事業の採択に向けて調整している。

【津田】基幹産業の長期的な反収低米により、農家は危機的な状況に陥っている。収入は上がらず、肥料も高騰して管理も投資もできない。収穫量が低いのは、国頭マージだけが原因ではないと思っている。農業が主要な産業である村にとって、インフラの機能不全は直接的な損失、農家の収入が大きく減少する。

【伊礼農林水産課長】北部灌排事業により、今年度から散水状況はだいぶ改善される。水の供給に関しては、農家にたいへん迷惑をかけてしまった。今年度は伊平屋村の土壌を分析して、本村の土づくり対策基本指針というのを3年かけて作成する。それを基本にして、どのような農業が適切なのかも検討したい。

【津田】農家は早急に支援しなければ立ち上がれないところまでできている。化学肥料と水を2年ほど無償提供できないか。もしくは旧製糖工場にサトウキビの破碎機やハンマー、絞り機があるので、草木を破碎して堆肥にしたり、破碎した草木に圧縮をかけて菌床を作る等、できることからでも迅速に進めてほしい。

【伊礼農林水産課長】それらの機械を活用できるなら検討したいが、まずはランニングコストも含めて適正かを見極めたい。



国頭マージ断面



島尻マージ断面

沖縄県における農耕地土壌の構成と画像は『沖縄県野菜栽培要領（2014年3月発行）』より引用。

上原

津田

西銘

新垣

野甫

上地



一般質問ダ

6 名が登壇して合計

議会の動き

議決結果

議案 Q & A

一般質問ダイジェスト

議会あれこれ

上原

津田

西銘

新垣

野甫

上地



にし め しん すけ
西 銘 真 助



伊平屋人口ビジョン策定と第 5 次総合計画・第 2 期総合戦略について。

答

生産年齢人口の減少と高齢人口の増加を伴う人口減少問題は、税収の減少と社会福祉の支出増大に繋がる。課題解決のため「定常化戦略」「強靱化戦略」を提案、対策費として交付税化したふるさと創生の活用を検討。

【西銘】この一般質問は、深刻化する人口減少問題に関して村民に問題を周知し課題を共有するという意味で行う。まず伊平屋村の現在の状況と将来人口について、どうなるか伺う。

【太田政策調整監】2023 年に国立社会保障・人口問題研究所が推計した将来推計人口では、伊平屋村の人口は 2030 年までに 1,000 人を割り込み、2050 年には 644 人にまで減少すると報告された。現在、伊平屋の生産年齢人口（15 歳～65 歳未満）は 600 人強だが、2050 年には 300 人を割り込むと予測されている。そのうえ生産年齢人口と高齢人口（65 歳以上）が 280 人程度でほぼ同数になり、14 歳以下の若年人口は 80 名ほどと予測されている。

本村の将来推計人口を受けて、村長は「維持及び人口の社会減の縮小を実現するために、喫緊の対策を講じる」という旨の施政方針演説を行い、「女性が輝き若者が活躍する島づくりを推進する」ということを強調していた。

【西銘】人口減少問題に関する課題の中から、特に大きな課題と、その課題に対する戦略を 2、3 伺う。

【太田政策調整監】一つ目の大きな課題は人手不足、二つ目は税収の減少である。本村の税収は、9,000 万ほど。今後それだけの税収を見込めるのか疑問であり、社会福祉等々の支出も大幅に増加することが想定される。それらの課題に対する戦略を考えるうえで、まず「自らの意思で切り開いていくという強い覚悟を持つこと」と「女性と若者が暮らしやすい島を実現すること」を基本的な考え方として、定常化戦略と強靱化戦略を提案する。定常化戦略は人口減少のスピードを緩和させて、将来的には一定数の人口で安定化させる戦略である。強靱化戦略は、人口が減少しても個人の生活レベルが向上して、住民が質的な豊かさを享受できる戦略。生産性の向上が基礎にあり、マーケットは縮んでいくが一人一人の暮らしは向上するということ。

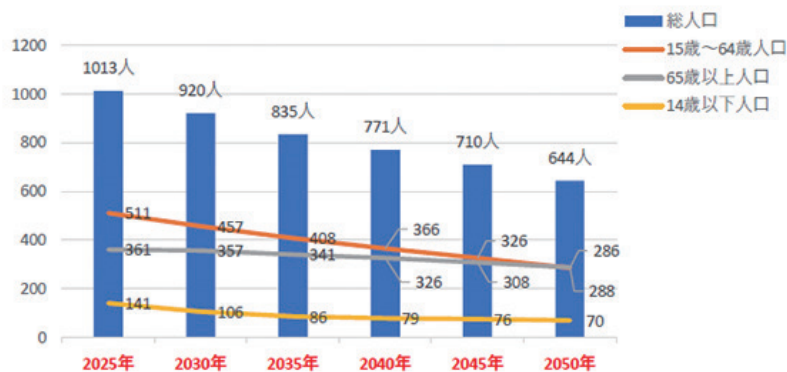
【西銘】視点を変えて交付税に関して伺う。人口減少等特別対策事業費が 8,500 万ほど、地域社会再生事業が 3,600 万ほど、デジタル化が 3,100 万ほど。これらは報告義務があるのか、そのお金は我々の人口減少対策に使えるかどうか伺う。

【名嘉企画財政課長】それらの交付税は地方財政措置であり、縛りの強い報告義務はないと認識している。また、それらを原資として人口減少時代をどう乗り切っていくかという件に関しては、第 5 次総合計画にある縮充や減策の考えに基づいて、実質的な豊かさを追求していく地域づくり、村づくりができればというところである。



第 5 次 伊平屋村総合計画 第 2 期 伊平屋村総合戦略

伊平屋村人口の将来推移（社人研2023年調べ）





我喜屋公民館の拡張整備を望む声がある。村の負担が少ない補助メニュー等を活用できないか。

答

農村公園整備事業に該当するが、集落にとっても負担がない方法で且つ要望の計画で行事を支障なく続けられるか確認しながら進めたい。

【西銘】我喜屋公民館は主に集落行事で活用されているが、『我喜屋大綱引き』の場合は、広場が狭いので南側の道路で綱引きをしている。さらに区民運動会などより多くの人が集まり、広場で開催する行事もあり、もっと広く、ゆったり使いたいという要望があがっている。

【伊礼農林水産課長】我喜屋公民館は、平成 15 年から平成 19 年の集落地域整備事業我喜屋地区の一環で、農村公園として整備したと認識している。同様に農村公園として拡張整備をするなら、補助メニューを探して沖縄県と調整する必要がある。区として、どのような位置づけで整備計画をしているのかなど詳細を伺う。

【西銘】区の要望は、北側の 2 区画を買い取るなどして拡張し、芝生を植えて整備すること。農村公園整備事業ならば経費も抑えられる。難しければ企業版ふるさと納税の活用も検討してほしい。

【名嘉企画財政課長】通常、事業計画の策定では、まず所管課で補助メニューを検討する。並行して、付随する財団や国の出先機関などが公募している事業があるかどうかを確認する。該当しない場合は、北部振興事業や離島活性化推進事業、特定推進事業など離島特有の特殊条件に起因するものについて、特別に措置されている財源を検討する。



我喜屋公民館の南側で開催される『我喜屋大綱引き』。移転前は雌縄と雄縄それぞれ約 70m の綱をカヌチ棒で合体させて競ったが、現在のスペースに併せて短くとり各 30m ほどの綱で実施している。



しん がき まさ し
新垣 雅 士

QR コードで
すべて確認



無電柱化推進事業の現状と進捗状況を伺う。

答

県道から無電柱化を推進していく。令和 5 年度に計画を策定、今回の補正予算は実施設計にかかる。

【名嘉建設課長】無電柱化は電線類を地中に埋設することで、道路から電柱を無くすことである。

今後、県道から無電柱化を進めていく予定で、最初に着手するのは島尻区にある旧県道 600 メートルの区間。現段階では、令和 5 年度事業で伊平屋村無電柱化推進事業の計画が策定されている。

今回の補正予算は、島尻区にある旧県道 600 メートル区間の実施設計にかかるものである。

【新垣】島尻区の県道から始めるとのこと。その後、無電柱化する場所は、これから計画するのか。

【名嘉建設課長】沖縄県のブロック協議会があり、今回の計画は 8 期に記されている。県道から無電柱化を実施していく計画になっている。

【新垣】この計画は村の予算ではなくて、沖縄県の事業で進めているということか。

【名嘉建設課長】沖縄のブロック協議会があり、そちらでこの計画を認定しているという状況。

【新垣】無電柱化は、これからの台風シーズンに向けた災害の備えになり、本村の第 5 次総合計画にある原風景に通じる。早急に進めてほしい。



ピンクラインが旧道



一般質問ダ

6 名が登壇して合計

議会の動き

議決結果

議案 Q & A

一般質問ダイジェスト

議会あれこれ

上原

津田

西銘

新垣

野甫

上地



廃プラと漂着ゴミの処理について、現状と今後の展開を伺う。

答

いずれも運搬業者に委託して処理業者に搬送。農家と漁家の処理費用の負担は減っている。石油製品が燃えやすい焼却炉の導入を検討中。

提言

検討中の焼却炉は処理費用が低額で抑えられて無償提供とのこと。さらに CO2 削減にも繋がるならば持続可能な島も目指せる。実現に向けて尽力してほしい。

【新垣】農林水産業用廃プラスチックに関しては、平成 30 年 11 月に適正処理対策協議会が立ち上げられた。海岸漂着ゴミ対策に関しては、毎年 900 万円程度の予算が組まれている。現状を伺う。

【伊礼農林水産課長】廃プラスチックも海岸漂着ゴミも運搬業者に委託して、処理する業者へ搬入してもらっている。廃プラスチックに関しては、令和 2 年から令和 5 年の処理量 24,690 キロ、処理費用 1,855,810 円を含めた合計 3,220,010 円。

ただ、廃プラスチックに該当するモズク網に関しては、海岸漂着ゴミとして処理している。当初、漁協と役場、漁家が 1/3 ずつ費用を負担して処理する取り組みだったが、令和 2 年度の処理時にモズク網の所有者が分からず漁協が 2/3 を負担した経緯がある。そのため令和 3 年以降は、モズク網を海岸漂着ゴミとして処理している。

【新垣】漁協組合だけでも 300 万近く負担した。島内にリサイクル施設を造るなど、何か良い施策を検討できないか。

【名嘉村長】企業版ふるさと納税で焼却炉を伊平屋村に無償で提供したいという申し出がある。モズク網や漂着ゴミを含む石油製品が非常に処理しやすいプラントなので、検討して伊平屋の実状に合うなら導入して有効に使いたい。



12 フィート（5 トン）ある荷台

荷台が満杯になったら島外へ搬送



指定された土取り場があれば、自分たちで補充したいという農家の意向がある。考えを伺う。

答

土取り場を指定する計画はない。公共工事等でストックしている土砂がかなりあるので、ふるいにかけてうえて価格を設定して販売することは考えられる。

提言

良い土があるところを土取り場に指定して、農家の反収が上がるように配慮してほしい。

【新垣】伊平屋村はサトウキビと稲作を中心に農業が行われている。島の産業を担う農家から、「不陸整正したいが、指定された土取り場が無くて困っている」と聞いた。村から指定された土取り場があれば、そこから自分たちで土を運び、窪みに補充して農地を平らにしたいという要望がある。

稲作農家は、水を入れて鋤をする時に両端に土が寄ってしまい、長年続けることで窪みができてしまうので、補充したいようだ。サトウキビ農家は、大雨で土砂が流れてしまうので、埋め戻しに使いたいようだ。

【伊礼農林水産課長】現在、土取り場の指定はなく、これから指定する計画もない。ただ、公共工事等でストックしている土砂がかなりあるので、それらの土砂をふるいにかけて、ダンプ 1 回あたりの価格を設定して販売することは考えられる。

【新垣】「残土をふるいにかけて販売」とのことだが、行政に動いてほしいという要望ではない。農家は、「指定した土取り場があれば、自分たちでやりたい」と言っている。田名のシテへの土地がかなり良い土地らしい。以前、ここから一部運んでいたらしいが、指定されていないので止められたという経緯があるようだ。

そのように良い土があるところを土取り場に指定して、農家に活用してもらい反収の向上に繋げてほしい。強い要望があるのは田名の農家である。課長の出身は田名地区なので、いろいろ調整して、できれば早急に指定していただきたい。



の ほ ひで よし
野 甫 英 芳



伊平屋空港と伊平屋・伊是名架橋建設の現状と、今後の展開について伺う。

答 いずれの活動もコロナ禍で低迷していたが、架橋は総会が開催されるなど動き始めた。沖縄県の反応は前向きではないが、希望を捨てずに進めていきたい。

提言 立ち足はかかる多くの問題を整理して具体的に話し合い、一つずつ解決していくことから始めてほしい。

【名嘉建設課長】令和元年度以降コロナ禍によって活動が低迷している。総会を早期に開催して、今後に向けて調整したい。架橋建設は5月に定期総会が開催され、事業計画、予算等が承認されて活動できる状態になったので、伊是名村と先進地視察などを行っていく予定である。

【野甫】伊平屋島空港建設の話が浮上したのが1977年、今から47年前。架橋については、以前、総建設費用が600億かかるため難しいという話があったものの、推進協議会で橋の視察に行こうという話がでていた。建設自体が難しいだろうという状況なのだから、造る必要があるのか、造ったらどうなるのか、具体的な話し合いが必要ではないか。本当に橋が必要だと思っていて、やろうという意思があるのか。

【名嘉村長】当時は、伊平屋に飛行場を造っても就航できる飛行機がなかった。現在は、短い滑走路でも離発着が可能な飛行機がどんどん開発されている。そのような状況下で、伊平屋村が今後どのように進めていくか。そこで最も必要なのは需要。伊是名村と伊平屋村で、沖縄県が見込んでいる空港の需要6万人を上回ることができるのかが一番の争点。県が示している需要を上回る来客数、いわゆる観光客をどう増やしていくかが重要である。県が一番懸念しているのは赤字で、日本の空港はほぼ赤字である。県が示している空港の需要6万人は、両村民の使用も含めた数字だが、それでもかなり大掛かりなことになると捉えている。例えば、まだ決定ではないが、伊是名の具志川島に構想されているリゾートホテル建設、その類いの規模。空港ができる前提で、複数の企業からどうして増やしていくかという提案はあるが、それも空港ありきの提案。現状では、県が求める6万人にはほど遠い。それから、携わってきた中で最近非常に必要だと思っていることは、伊平屋に路線を開通している航空会社と自分たちで合意を結ぶこと。そうでなければ、県は空港建設には着手しないのではないかと思っている。それでもインフラの整備は必要なので、港が使えない場合に物資の輸送をどうするかなど含めて考えなければいけない。かつて明石海峡大橋の夢を描いた神戸市長の言葉に、「人生すべからく夢なくしては叶いません」という名言がある。できない理由よりどうやったらこの空港が実現できるかを考えて、みんなで一生懸命に取り組む。

橋に関しては、600億以上かかる可能性がある。先ほど議員から、「橋を架けたら島が豊かになるのか」という質問があったが、現地を見ればおのずと分かること。例えば、宮古島は8つある離島のうち3島に橋が架かっている。その結果、便利な宮古島に人が集中した。今帰仁村の古宇利大橋は、逆に島外から人が入ってきて、リゾート地としてどんどん発展している。しかし、あまりそういうふうになっても困る。本当に橋が必要なのか、景観的にどうなのか、そのへんも含めて検討していく必要がある。

【伊平屋空港と伊平屋・伊是名架橋建設の経緯】（一般質問のやりとりより）

- 1977年 伊平屋島空港建設の話が浮上（那覇市に空港事務所を設置・野甫の土地買収など）
- 1991年 空港建設促進委員会を立ち上げる
- 2005年 伊平屋島で空港協議会を立ち上げる
- 2006年 沖縄県がパブリック・インボルブメントを開始
- 2019年 『伊平屋空港と伊平屋・伊是名架橋』に関して、沖縄県に国への要請を依頼



一般質問ダ

6 名が登壇して合計

議会の動き

議決結果

議案 Q & A

一般質問ダイジェスト

議会あれこれ

上原

津田

西銘

新垣

野甫

上地



伊平屋村農業近代化施設（ライスセンター）の稼働予定を伺う。

答

建屋工事の工期が令和 6 年度末の完了を見込んでおり、稼働は令和 7 年度一期作からを予定。管理団体に関してはこれから検討する。

【伊礼農林水産課長】前年度の経緯から説明すると、ライスセンター整備事業は、令和 5 年 10 月に補助金の交付決定を受けて、業者と機械プラント設備整備工事で本契約を締結。

令和 5 年 12 月には本体建屋工事の公募型競争入札を実施したが、入札不調となった。令和 6 年 4 月に改めて一般競争を行ったが、こちらについても入札不調となり、工事業者から見積徴収により設計を行った。

差額分を新たに令和 6 年度事業として追加の工事予算を要求するとともに、令和 5 年度繰越予算分では実施可能な範囲を選考して発注契約を行う方針である。本日、業者と見積もり合わせをして審査した結果、仮契約を実施する運びとなった。明日、追加案件として議会に上程する予定である。工期については令和 6 年度末の完了を見込んでおり、令和 7 年度一期作から稼働を予定している。その前に刈り取りをした場合は、受け入れ体制ができていないので、穀物コンテナ 30 基を活用して対応する。

【野甫】それから、JA が次回からの管理を拒んでいると聞いた。今後は、誰が管理するのか。

【伊礼農林水産課長】そのようなことは聞いていないが、指定管理については条件があって、「それをクリアしないと指定管理は受けない」という内容は聞いている。こういった方向で進めていくかはまだ検討していないので、課長会等を開催して検討していきたい。



ライスセンター起工式 7 月 11 日開催



商福連携拠点施設について。伊平屋菓子ワークスの稼働状況と今後の事業展開を伺う。

答

菓子ワークスは 4 人の専従職員が地域活動支援センター「アラス（通称）」と共同体制を構築して、平日 9 時から 17 時まで稼働している。目標は自主運営だが、地域自立支援の一環なので、村による支援体制から国の法的支援に変えて展開していく可能性は充分にある。

提言

この先 4 年ほど伊平屋村の補助事業として継続する見込みなら、村民の理解を得るために、もっと情報共有をした方がいい。

【名嘉企画財政課長】商福連携拠点施設は、主に島内向けの生菓子や土産用の焼き菓子の製造販売を行っている。2023 年 11 月から本格的に稼働して、5 ヶ月間の累計売上は 1,342,000 円。製造販売にかかる経費は村が負担しているが、その売上額から一定額を提携業者に支払い、残額を村に還付する仕組み。それを原資にハンデキャップを負っている方々等の資金として活用したい。

【野甫】補正予算は 1,400 万。村の補助を受けずに稼働するための計画や予想を伺う。

【名嘉企画財政課長】仮に専従職員 6 名体制なら、5,000 万ほどが利益分岐点であり、これから経費を引いて販売益が 500 万程度出るシミュレーション。利益を活動原資に加えて自立化を図っていくという出口戦略を描いている。将来は法人格を取得して適正な経理管理運営を目指したい。

【野甫】村民から、土日祝休みや島で商品を目にしないことを指摘されている。いつまで補助するのか。

【名嘉企画財政課長】補助に関しては目標に近づけるために 3 ～ 4 年ほどは必要と考えている。ご指摘については、地域の皆さんにもしっかり示せる体制を整えていくべきだと思っているが、この事業自体が地域自立支援の一環にもなっている。人材の獲得が可能であれば、今後国の法的支援を受けながら展開していく可能性は十分にある。

【野甫】税金を活用しているので、住民の理解を得るために、もっと情報共有をしてほしい。



うえ ち よし のり
上 地 義 則

QR コードで
すべて確認



展望台へ向かう林道の入口を1カ所に決めて、一方通行にすることは可能か。

答 公安委員会に要請すれば可能。関係者や関連機関と話し合い、最も実用的で交通の安全を確保できるかなど検討しながら進めていきたい。

【上地】展望台へ向かう林道の入口は我喜屋側と田名側の2カ所である。どちらからも登ることができるが、道幅が非常に狭く、車がすれ違う時にはとても危険である。進入場所を1カ所にして、交通標識を設置し一方通行にすることは可能か。

【伊礼農林水産課長】資料『林道における車輛の通行に関する措置』の図からすると、まずは「一般交通の用に供する《不特定多数の者が自由に通行できる状態かどうか》」にあたるのか否かを判断する。現在、一般交通に関しての制限がないので、林道管理者は伊平屋村になる。その場合は都道府県の公安委員会等に情報の提供及び要請が必要なので、公安委員会等が車輛の通行の禁止又は制限を設けることができる。確かに林道の幅は狭小なので車のすれ違いは危険であると考えている。車の2台通行が困難なため、待避所はあるが2、3カ所程度、いつ対向車が来るのか分からないため、特に観光客、伊平屋村に初めて来られた方々に関しては、安全に通行ができない状況である。それを踏まえて、本村の林道についても一方通行等ができないかということを公安委員会、住民等の意見も取り入れながら協議し検討していきたい。

【上地】公安委員会に申請することで一方通行にすることは可能だと受け取ったが、正しいか。

【伊礼農林水産課長】林道を一方通行にすることは、可能である。資料からすると公安委員会に要請が必要なので、その前に地元住民の意見も取り入れながら、さらに観光協会を含む機関と話し合いの場を設けて、実用的で交通の安全を確保できるかなど検討して進めたい。



フェリーいへやⅢの女性船員の採用について。

答 正確にいうと確認中だが、現状では女性船員の採用は難しい。いろいろ検討したが、設備面や管理監督責任などがネックになっている。

【上江洲観光交通課長】2023年9月定例会の質疑応答を経て、村としてもあらゆる角度から、女性船員の採用を検討してきた。女性船員の乗船は船舶設備規定において「船員室、浴室、トイレ、洗面設備及び洗濯室を独立かつ専用のものにする」とある。但し「海上保安庁の船舶は適時斟酌しても差し支えない」というふうな規定もあるため、正確に言うとは現状は確認中である。また、受託業者の追加委託なども検討したが、難しいという結論に至った。

【上地】いろいろ検討していただいた結果だと認識した。しかしながら、今後女性船員は必要だと思うので、引き続き模索してほしい。また、フェリーを新造する際は、今回ネックになった設備面も考慮してほしい。

【上江洲観光交通課長】伊平屋村の第5次総合計画でも、海上交通の整備が明記されているので、村としても考える必要がある。また、新たにフェリーを建造する際には、しかるべき委員会を立ち上げたら、女性船員の採用に関することも考慮する必要があるとも考えている。



フェリーいへやⅢの従業員用設備

上原

津田

西銘

新垣

野甫

上地



議会あれこれ

議会の動き

議決結果

議案Q & A

一般質問ダイジェスト

議会あれこれ



6月定例会で『伊平屋村ポートターミナルの設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例（議案第38号）』が可決されました。審議会の委員に関わる内容を改正したことで、テナントの配置やイベントの開催等が迅速に進められるようになりました。[→詳細は6月定例会の会議録へ](#)



通常



冠水時



6月定例会の会期中、大雨により前泊地区にある「ナートウの浜」付近が冠水しました。降水量が多い時はたびたび起こっていましたが、今後は『前泊地区赤土対策計画』により改善される見込みです。一般質問の要約はP8に掲載されていますが、さらに詳細を確認したい場合は6月定例会会議録をご確認ください。[→詳細は6月定例会の会議録へ](#)



6月定例会の会期中に、課題のある現場を視察しました。『我喜屋地区経営体育成基盤整備事業』に関して今後の対応を検討しています。かつて田んぼを畑に変えるため早急に取り組み、平成27年の工事完了後は沖縄県と伊平屋村が管理協定を結んでいます。今後の動きにご注目ください。



伊平屋村議会は年に12回～13回開催されます。そのうち、定例会は年に4回です。開催日などの詳細は『伊平屋村公式HP』内の「伊平屋村議会」のページでご確認ください。

傍聴もお待ちしてます！

ご意見・お問い合わせ
伊平屋村議会事務局
0980-46-2737
(担当：我部)